



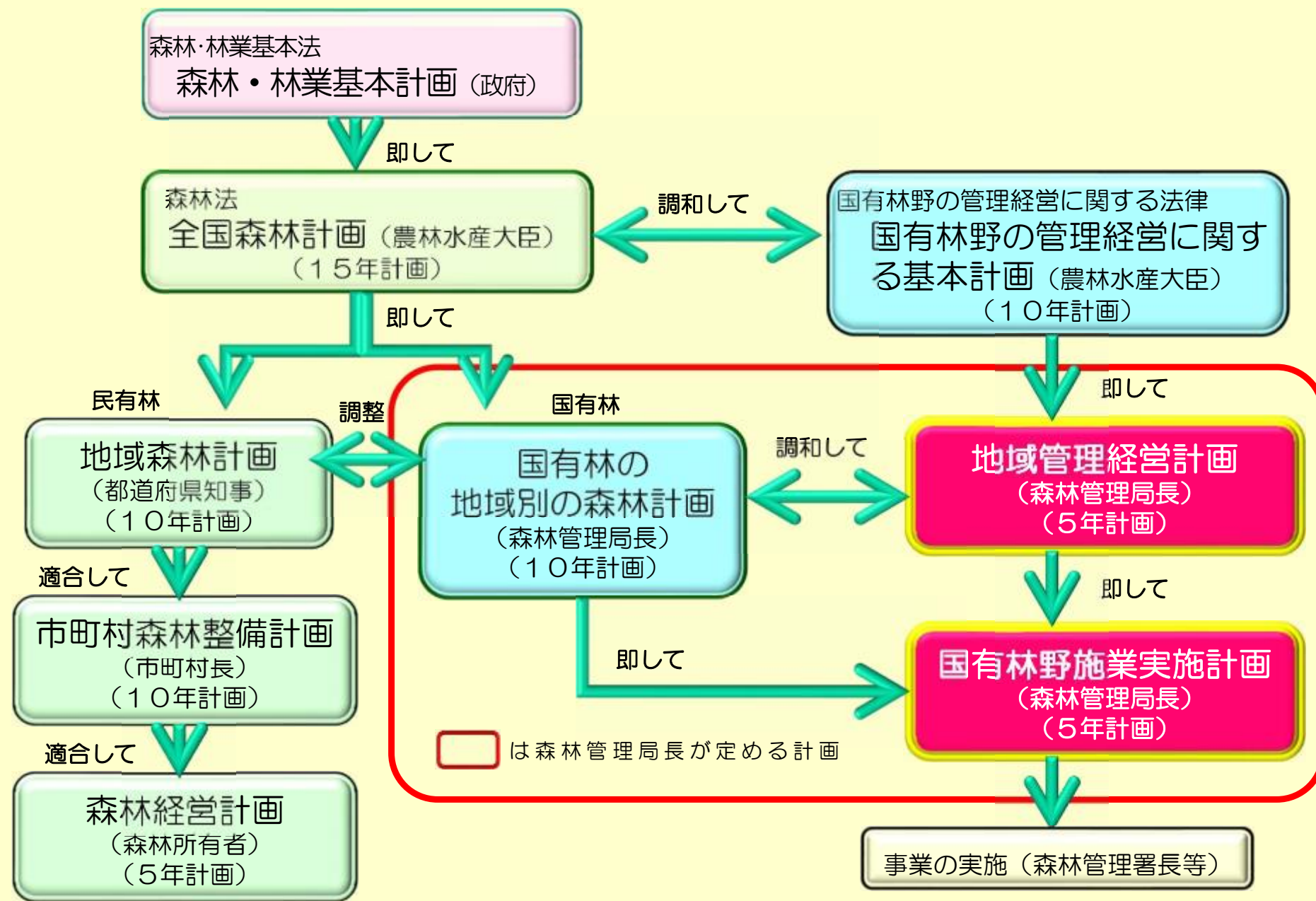
国民の森林・国有林

伊賀森林計画区の国有林野と 次期計画の検討方向

稲田を取り囲むように位置する国有林野
【焼尾国有林（伊賀市）】

林野庁 近畿中国森林管理局
三重森林管理署

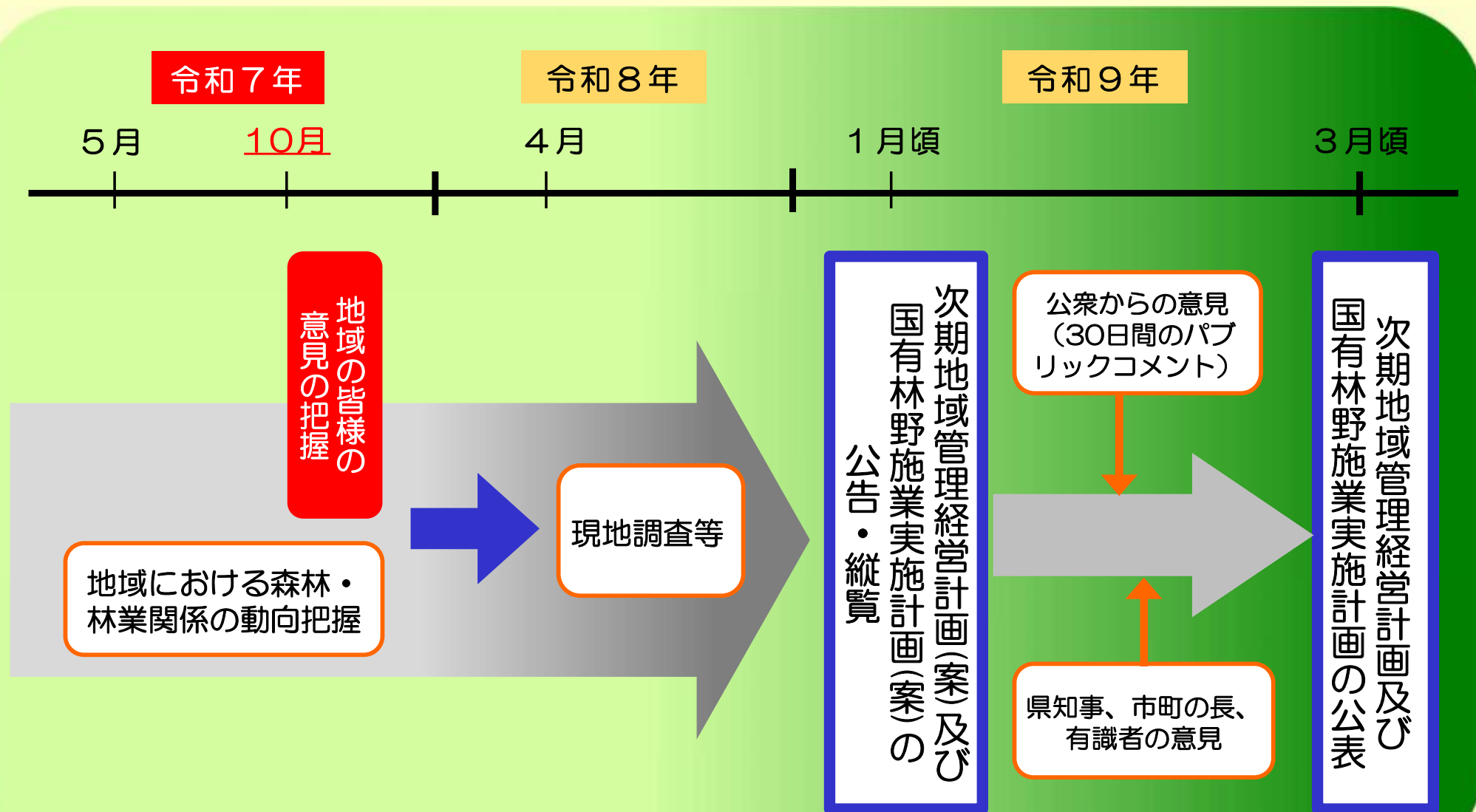
地域管理経営計画と国有林野施業実施計画



地域管理経営計画の構成

- I 管理経営に関する基本的な事項（基本方針、主要事業量 等）
- II 国有林野の維持及び保存（巡視、病虫害の防除、森林の保護 等）
- III 林産物の供給（木材の安定的な供給 等）
- IV 国有林野の活用（活用の推進方針やその具体的な手法 等）
- V 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全等に関する事項
- VI 国民の参加による森林整備（森林環境教育の推進 等）
- VII その他（林業技術の開発及び普及、地域振興 等）

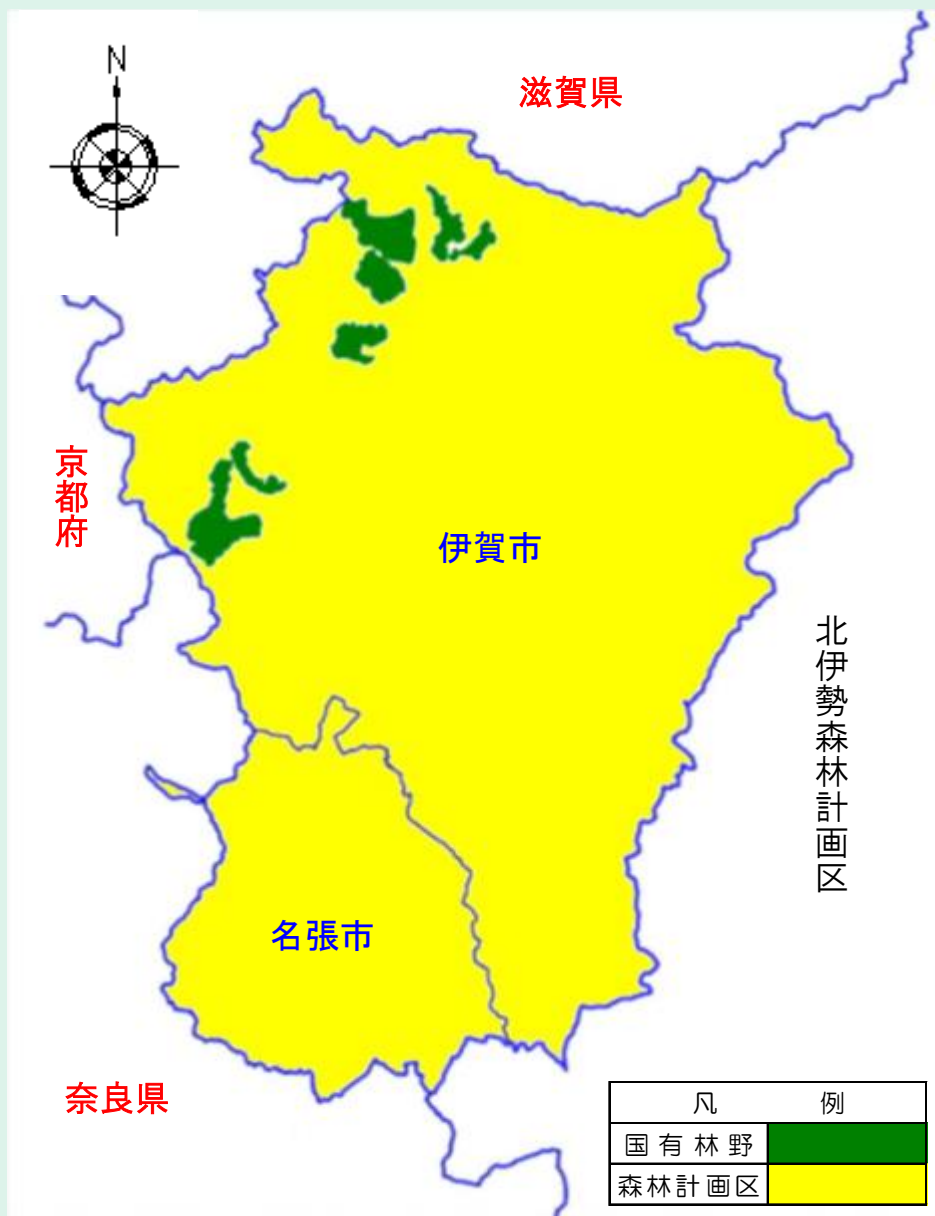
策定スケジュール



伊賀森林計画区の国有林野の特徴と 現行計画期間の主要事業量

伊賀森林計画区の国有林野

【伊賀森林計画区位置図】



■ 森林の総面積 4万1千haのうち
国有林野は 1.3千ha（3%）

■ 国有林野は伊賀市のみに所在し、
大部分は集落、農耕地に隣接

【国有林野の機能類型（※）】

機能類型	面積 (比率)	対象とする森林
山地災害防止 タイプ	835ha (64%)	土砂崩れや土砂の流出等による山地 災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐ ことを目的に整備する森林
自然維持 タイプ	19ha (2%)	原生的な森林生態系や貴重な動植物 が生息・生育するなど特別な保全・管理 が必要な森林
森林空間利用 タイプ	—	国民の皆さんが森林とふれあう場とし て、また、森林ボランティア団体等の活 動の場としての森林
快適環境形成 タイプ	—	騒音の防備や大気の浄化等生活環境 の形成を目的に整備する森林
水源涵養 タイプ	444ha (34%)	洪水の緩和、水質保全等を目的に整備 する森林

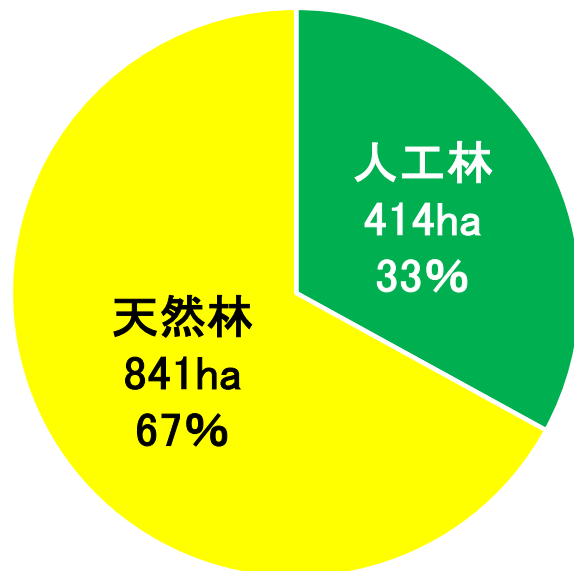
※ 重点的に発揮すべき機能によって、森林を5つの機能類型
(タイプ) に区分し、適切な管理経営を行っています。

森林資源の状況

■面積割合は人工林が33%、天然林が67%

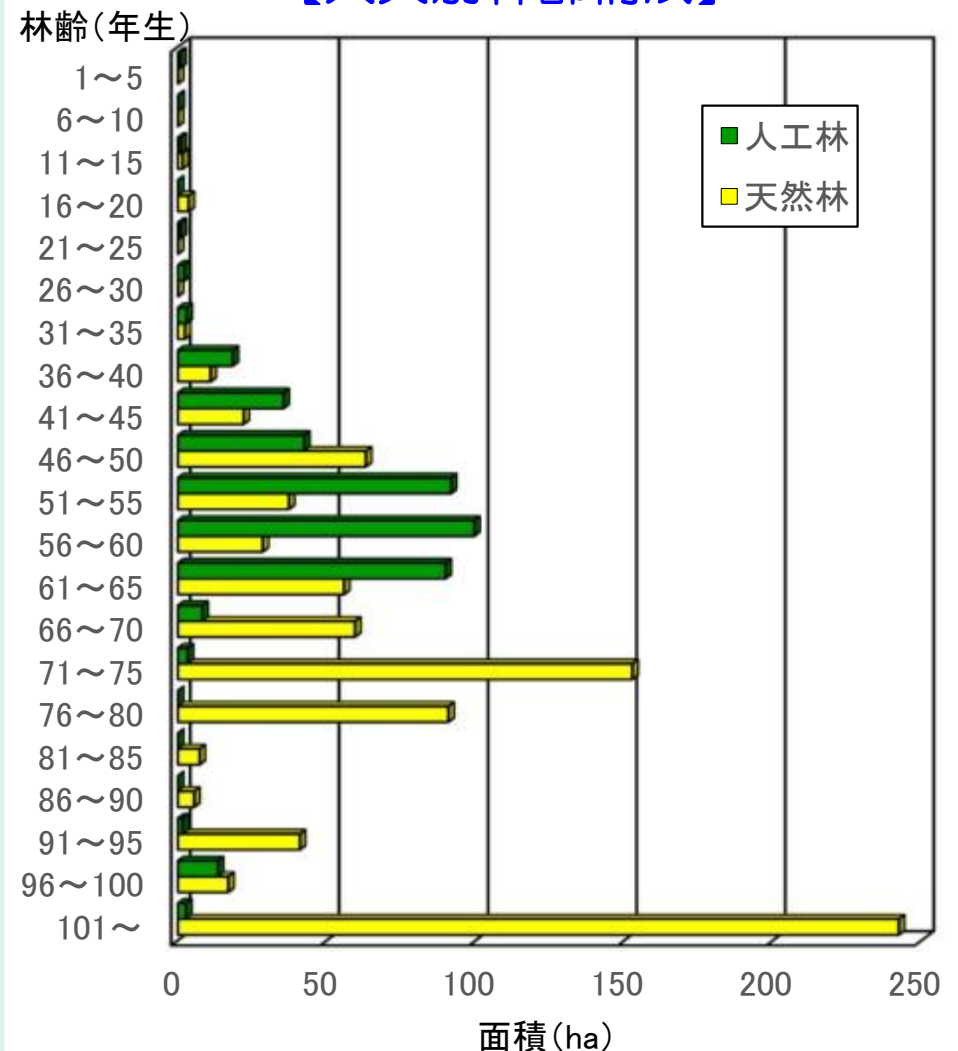
■人工林の蓄積割合は、スギ16%、ヒノキ40%、クロマツ19%

【人工林・天然林別の面積割合】



■人工林は、51年生から65年生が中心

【人天別林齢構成】



国民参加による森林づくり

■森林教室等の学習活動、企業等による社会貢献活動としての森林整備や清掃活動を支援するため、協定を締結して、国有林野を活動のフィールドとして提供。

■本計画区の国有林野はなだらかで、アクセスが良いという特徴があり、活動するのに比較的容易であるため、これまでに4協定を締結。

種類	名 称	面積 (ha)	場所	主な 活動内容
遊々の森	生き生き学びの森	5.02	焼尾国有林	森林教室
社会 貢献 の森	伊賀マツタケ 十字軍の森	25.34	焼尾国有林	枯損木整理
	ジェイテクト 伊賀試験場 自然共生の森	25.40	青岳国有林	植樹
多様な 活動 の森	陶芸の森	5.50	入丸国有林	林内清掃 散策路整備



遊々の森「生き生き学びの森」での森林教室
【焼尾国有林（伊賀市）】



社会貢献の森「ジェイテクト伊賀試験場
自然共生の森」でのアカマツの植樹
【青岳国有林（伊賀市）】

国有林野の活用

■本計画区の国有林野は広く農耕地に隣接するため、ため池、農道等の農業基盤施設用地として活用要望が多数あり、該当区域の国有林野の貸付けにより対応。

【農業基盤施設の貸付実績】

施設区分	貸付件数	貸付面積 (ha)
ため池	5	8.85
農道	7	1.17
用排水路	5	1.61
計	17	11.63



ため池用地の貸付事例：大正池
【青岳国有林（伊賀市）】



農道用地の貸付事例：農道祠線
【松林坊国有林（伊賀市）】

■国指定の伝統工芸品「伊賀焼」の原料となる粘土を採掘する目的で、国有林野を貸付け。

■これらの国有林野の活用を通じて、地域産業の振興に寄与。



粘土採掘場の貸付地
【引台国有林（伊賀市）】

森林病害虫による森林被害の対策

- 本計画区では、過去に植栽したマツが松くい虫の被害を受け、相当数が枯損、消失。現在は大部分が広葉樹に置き換わる。
- 残存しているマツの中にも依然として松くい虫の被害が発生しており、被害木を対象に伐倒駆除を実施し、周辺への被害拡大の防止を図る。



被害を受け立ち枯れしたマツ

松くい虫被害木の伐倒駆除



松くい虫により枯損した被害木を伐倒し、幹や枝を一定の長さに切断の上、集積する。



集積した幹や枝をビニールシートで被覆することで、被害の原因となるカミキリ虫（マツノマダラカミキリ）の飛散を防止。

主要事業量

【現行計画量：R4～R8年度】

・伐採量

	現行計画量	
	面積(ha)	材積(m ³)
主伐	6	384
間伐	64	6,646

・更新量

現行計画量 (ha)	
人工造林	天然更新
0	6

・保育量

現行計画量 (ha)		
下刈	除伐	枝打
0	1	0

【事業実績：R4～R6年度】

	事業実績	
	面積(ha)	材積(m ³)
主伐	0	0
間伐	1	79

事業実績 (ha)	
人工造林	天然更新
0	0

事業実績 (ha)		
下刈	除伐	枝打
0	0	0

主要事業量

【現行計画量：R4～R8年度】

• 林道

現行計画量		
	開設（m）	改良（箇所）
数量	0	0

【事業実績：R4～R6年度】

事業実績		
	開設（m）	改良（箇所）
数量	0	0

• 治山

現行計画量	
保全施設（箇所）	3
保安林整備（ha）	0

事業実績	
保全施設（箇所）	0
保安林整備（ha）	0

次期計画の検討方向

国有林野の管理経営に関する基本方針

【国有林野の管理経営に関する基本計画
（令和5年12月22日策定）】

- 公益重視の管理経営の一層の推進
- 森林・林業施策全体の推進への貢献
- 国民の森林（もり）としての管理経営

- この基本方針に基づき、事業や取組を計画
- 特に、自然条件や社会情勢の変化に応じて
次の事項を重点的に検討

- 1 育成複層林施業の推進
- 2 自然度の高い森林の保全
- 3 林地保全に配慮した森林施業の推進
- 4 花粉発生源対策の加速化
- 5 特に効率的な施業を推進する森林

1 育成複層林施業の推進

森林・林業基本計画に掲げる森林の誘導目標に向け、近畿中国森林管理局においても、自然・社会的条件等を踏まえ、育成複層林への誘導を推進。

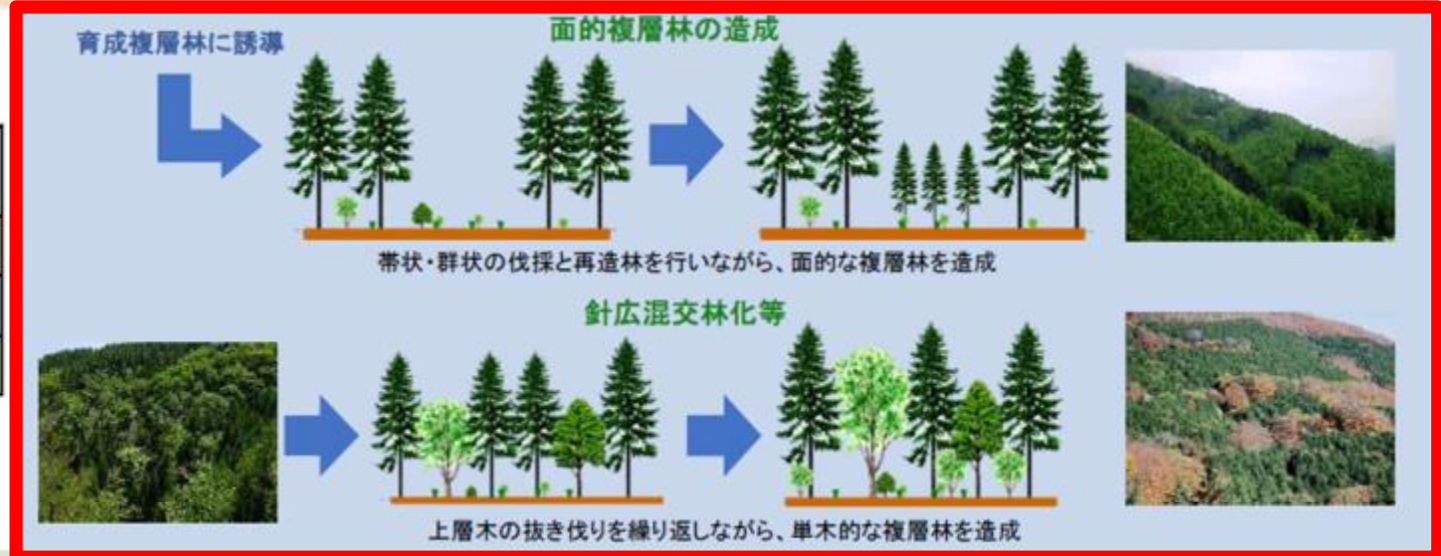


基本計画に掲げる森林の誘導目標

単位：万ha

	令和2年 (現況)	令和7年 (目標)	令和12年 (目標)
育成単層林	1,010	1,000	990
育成複層林	110	130	150
天然生林	1,380	1,370	1,360

育成複層林への誘導目標
5年間で20万ha(4万ha/年)



天然生林から
育成複層林に誘導

ナラ枯れ予防や放置され
た里山林の整備等



2 自然度の高い森林の保全

保護林周辺や奥山などに分布している自然度が比較的に高い森林については、今年度実施中の保護林モニタリング調査の結果等を踏まえ、適切な保全管理の対象と位置付けて自然維持タイプへの変更等を検討。

青岳天然ヒノキ希少個体群保護林



「青岳天然ヒノキ希少個体群保護林」の林内
【青岳国有林（伊賀市）】

所在地	青岳国有林 77ほ林小班
面積	8.85ha
林 齢	143年生 (令和7年時点)
特 徴	ヒノキの大径木 を中心とした針 葉樹林で、伊賀 地方における代 表的な天然ヒノ キ群落
設 定	昭和43年4月

3 林地保全に配慮した森林施業の推進

森林は国土のおよそ7割を占め、地形は急峻で複雑かつ脆弱。また、近年全国各地で山地災害が激甚化しており、山腹崩壊、林道の損壊等広域にわたる大規模な山地災害が多発。



国有林野では、従来から皆伐の伐採面積をおおむね5ha以下にするなど、公益的機能重視の管理経営を行ってきたが、今後、山地災害によるリスクを軽減するため、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組む。

・山地災害危険地区等との位置関係を確認し、機能類型の見直しを図る（山地災害防止タイプへの変更）。

・山地災害防止タイプのうち、急傾斜等に該当する小班をエリア指定し、林産物の搬出を原則として架線集材とする



山地災害危険地区の3区分

4 花粉発生源対策の加速化

府県が設定した「スギ人工林伐採重点区域」を含む市町村内の国有林を「重点区域に準じた国有林」に位置付けし、伐採・植え替えを効果的・集中的に実施。

（参考）林野庁の花粉発生源対策

花粉発生源となるスギの人工林について、「伐って、使って、植えて、育てる」といった森林資源の循環利用を推進し、花粉の少ない多様で健全な森林へ転換していきます。

伐って利用します

花粉を飛散させる
スギ人工林等を伐採・利用します。

住宅に加えて、公共施設や商業施設の木造化等にスギ材を利用することにより、花粉を飛散させるスギ人工林の伐採を進めます。



伐採された木材
の利用拡大



花粉発生源
である立木の
伐倒・搬出

植え替えます

花粉の少ない苗木等による植替や
広葉樹の導入を進めます。

花粉の少ない苗木の生産増大に取り組み、
スギの伐採跡地への植栽を促進
します。また、条件不利地においては、
伐採後の広葉樹の導入等を進めます。



花粉の少ない苗木等の生産体制を確立

出させません

スギ花粉の発生を抑える技術の実
用化を図ります。

スギ花粉の飛散防止剤の開発・普及等、スギ花粉の発生を抑え
飛散させない技術の実用化を図ります。



花粉飛散防止剤により枯死した雄花



目 標

- 10年後にはスギ人工林※を2割減少
- 将来的（約30年後）には花粉発生量の半減

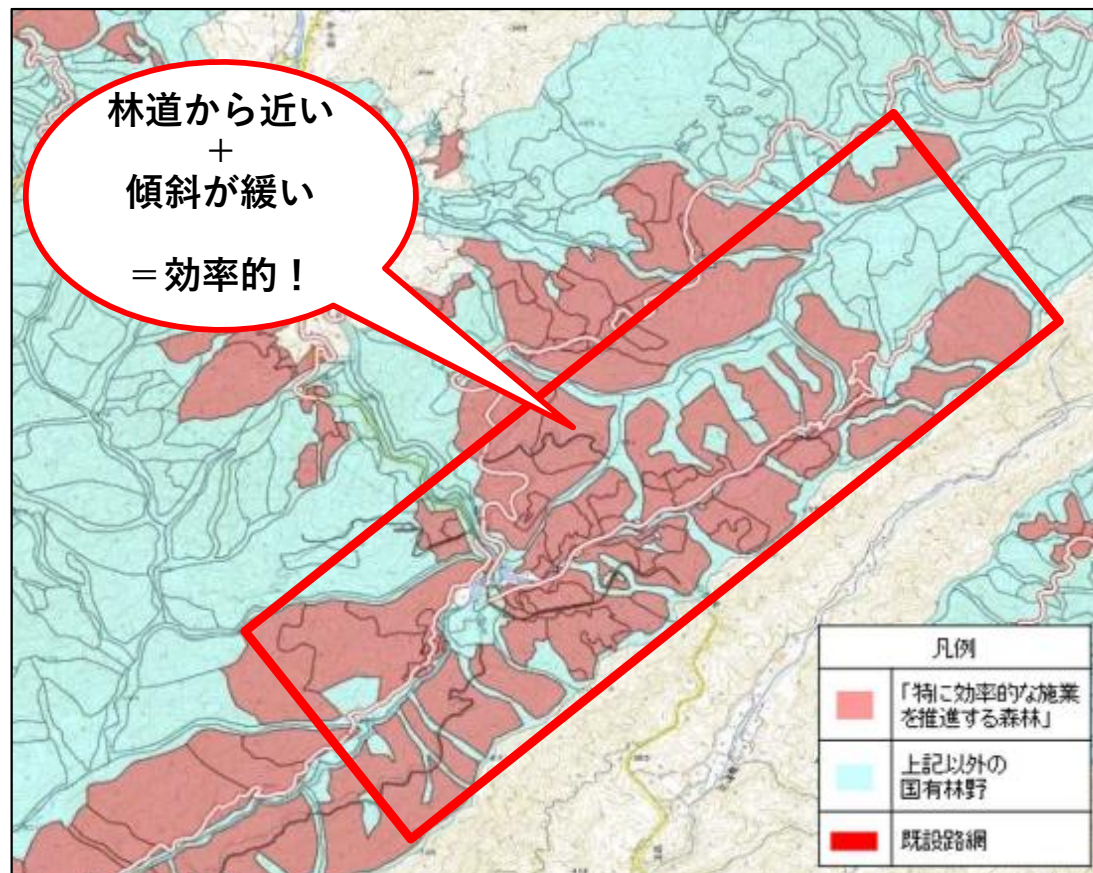
※花粉の少ない苗木はスギ人工林に該当しない。

注）大都市近郊における伐採を率先

5 特に効率的な施業を推進する森林

水源涵養タイプに区分された人工林のうち、地位が比較的高く、急傾斜地以外の自然条件や林道等からの距離が近いなど社会的条件から持続的な林業生産活動に適したものを「特に効率的な施業を推進する森林」に設定。

「特に効率的な施業を推進する森林」の設定と取組内容



「新しい林業」の実現に向けた効率的な施業の実施と民有林への普及



事業発注を通じた林業事業体の育成



木材の安定供給に資する林道の機能強化



このほか、分収造林新規契約やレーザ計測・解析等を優先的に実施



これらの取組を通じて、地域の国産材の安定供給体制の構築や将来的な森林吸収量の確保・強化にも貢献